

午前10時29分開会

○小枝委員長 皆さん、おはようございます。ただいまから文化継承・コミュニティ活性化特別委員会を開会いたします。座らせてやらせていただきます。

日程に先立ちまして、今回は令和6年度最初の委員会ということになります。お手元に名簿案をお配りしておりますので、ご参照ください。今回は自席待機を頂いておりますが、常時出席を求める理事者に丸をつけてございますが、このような形でよろしゅうございますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 はい。

お手元に本日の日程をお配りしています。この日程どおり進めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 はい。ありがとうございます。

日程1に入ります。勉強会についてです。前回3月4日に実施した本委員会におきまして、アンケート等を基に皆様から様々なご意見を頂きました。その際、正副委員長において意見などを取りまとめた上で、優先的に課題共有できるテーマや講師等に絞り込みを行うということとなっておりますので、今回はそれについてご報告をさせていただくとともに、委員会として確認を取らせていただきたいと思います。

それでは、内容について。勉強会につきましては、3月4日の委員会では、委員の皆さんから、関東大震災から100年の千代田のまちづくりであるとか、全国各地でなくなってしまった伝統文化の行方についてであるとか、あるいは古書店の話から、高山さんや八木さんのほうから話されたエリマネ活用の在り方であるとか、またわがまち人物館、麴町ゆかりの文化人のお話であるとか、あるいは、神田で伝統的な小売業をやっている方のお話であるとか、古い建物や商売をつなぐ関連を巡るツアーを実施している方のお話であるとか、意見を頂きました。そうした内容を精査していただいた中で、今回は、靖国神社や英国大使館、九段坂、千鳥ヶ淵など、初代区長を先頭に、区民、職員と一緒に、千代田区の豊かさと美しさのシンボル、区の花「桜」を植樹し、次世代につなげる努力をどういうふうにつけてきたのかとか、あるいはこれを継承していく上で何が課題であるのかとか、そうしたことを非常によく知っていらっしゃる、今日お手元のところにこの「千代田区のさくら そして未来へ」という冊子を配付させていただいておりますが、これ、全体に非常にいい内容なんですけれども、ページで言うと、36ページのところに、小藤田正夫さんという方のレポートが6ページ、掲載されております。この方、元千代田区の職員で、NPO法人神田学会の元理事ということで、まあご存じの方も多と思うんですけども、まちでの勉強会の講師として、よく出ていただいている方です。この話を伺うということで、タイトルとしては、震災101年と桜の継承についてというテーマで勉強会を、第2回定例会の、特別委員会の日程はこれから議長の下で一つ一つ入ってくることになると思いますが、大体7月の3日あたりかなというふうに思っているんですけども、そこら辺で講師依頼の手続に入らせていただきたいと思います。この点について調整を進めさせていただきたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 ありがとうございます。それでは、日程1を終了いたします。

2番、その他に入ります。委員の方から何かご意見ございますでしょうか。

○小野委員 次回、勉強会を、という話なんですけど、何かテーマというのは具体的にこういう感じのものをというのが、前回の皆さんからのご意見に基づいて大体決まっているんでしょうか。それとも、これからでしょうか。

○小枝委員長 小藤田さんのお話の内容についてですか。今回は、九段地域の、先ほどさっと申し上げたんですけど、あの辺のこの靖国神社であるとか、まあ、昔は招魂社と言ったらいいんですけども、あるいは英国大使館前であるとか千鳥ヶ淵のこの辺の、九段を中心とする、戦前も含むと思うんですけども、明治、大正、昭和、現代に至る、戦災、震災ですかね、その辺の、どう乗り越えてきたのか、そして、行政は、区長はどうそのようにリーダーシップを取って、区民を励まし、共に前に進んできたのかというようなところが中心になると思っています。そうすると、本当はどこの話でもできる方なんですけれども、今回は九段エリアを中心にお話を頂くことになるのかなというふうに思っています。

○小野委員 はい。ありがとうございますというところと、それから震災だとか、それから戦災だとか、その辺りのところを踏まえてどんなふうに発展してきたのかというところが、エリアとしては分かりやすく九段というふうに、今受け止めました。そうして、例えば前は神田の古書店街をやりまして、今回そのような勉強会をしてくださるということなんですけど、これを今後の限られた委員会の中で、新しいテーマが入ってくることはないと思うんですけども、念のため、どういうふうに今後それを集約して何かにつなげていくとか、またその辺りのところも、ぜひ、決まったら教えていただければとは思いますがどうかでしよう。

○小枝委員長 はい。すみません、委員長のほうからイメージとして申し上げます。

日程もある中で、今考えていますのは、連雀のときはちょっと、まあそこはちょっと無理でしょうということだった。で、神保町というところで始めさせていただいて、今度九段というエリアになってきますので、今度は、できれば、私のイメージとしては、やはり千代田、オール千代田ですので、麹町とか、そちらのほうの文化継承の話になっていったらいいかなというふうには思っています。そうした中で、やはり委員会として勉強会をやった内容を、今、非公式での勉強会みたいになっているんですけども、議事録を公式の資料として、これから3回だとすれば3回分アップさせていただいて、そして、その中から、議会も行政も一致して出せる課題意識であるとか、あるいは改善策、取組であるとか、そうしたものを、一致できる内容を委員会集約をかけていきたいなという方向で考えております。またいろんな意見を頂いて、もし委員さんのほうで、ぜひ、このこともというようにご提案がある場合は、閉会時の委員会を開くことによって勉強会を増やしていくことは可能かもしれませんが、そうした内容は、ぜひ、この内容という企画を、提案をさせていただいて、できれば、本当はもっと濃厚にやれたらいいと思っているんですけども、この状況からすると、もう一回もしくは2回、で、9月の議会ぐらいから以降は少し集約的なものに入っていただけたらなというふうに思っているという。まあ、それは副委員長と話しながら、もうそんな日程感で考えているということですのでよろしい。副委員長、いいですか。

○入山副委員長 はい。

○小枝委員長 はい。という感じです。ご意見があったら、どうぞ、どんどん、どうぞ。

○のざわ委員 そうしましたら、委員長、頭出しになりますが、ちょっと長いんですけども、先日千代田区に関わるということで、春山議員のお知り合いで、千代田区に日比谷さん、日比谷家と千代田家というのがあって、ほかにもいっぱい地名がついたところはみんなお家であったという方々で、どうやら歴史的事実としては、これ、非常に難しいんですけども、どうやら徳川幕府が出るときに、それぞれの地域に配置転換というか、そういうこともあったらしいんですが、日比谷さんが350年ぶりに会いまして、それで、日比谷様、お話では、要は日比谷家の由来というのが、千代田区の方のイメージでは、昔はここは沼地でしたという方が非常に多いんですけども、非常に諸説ございまして、この一つの諸説、説としましては、この江戸初期、この千代田区の辺りは、当時、漁民の方が住む村落でございまして、漁民の方がノリを取り、魚を捕らえるために、海の中に立てる竹の小枝のことをひびと言いまして、ひびが立っている、立つ入江、谷であったことから、日比谷という地名に転じたという説もございまして、日比谷家の方々は、いや、ここは非常に豊かな地域であって、この由来以外の説もあるということをはっきりと、当初、一般質問をして明快にしてほしいというお話だったんですが、やはり歴史的事実かどうかの確認が取れないことを議会で質問するのは、これは非常に難しいことであろうということで、まずは、そこまでご理解いただく中で、千代田区には多くのこのようなお家の方がいらっやっていて、一般的に江戸の開府以降の歴史は非常に多いのですが、その前の方々の歴史というの、一つひもとくのも大切なものかもしれないという、そのような日本維新の会の中に話がありまして、取りあえず、春山議員は、まずは鎌倉時代、当然、もっと前の国の開闢まで行ってしまいうんですけど、そうやってくと神話の世界も入ってきますので、なかなか現実的にまずはということで、鎌倉以降、千代田区その歴史を、日比谷や丸の内エリアマネジメントも捉まえながら、何か議論をするのは、千代田区にとって有益ではないかという、今、着想が持ち上がっておりまして、この文化継承・コミュニティ活性化特別委員会のほうに、今どういう形か分からないんですが、議題としてご案内、ご提案をさせていただきたいという、今動きが日本維新の会の中にあるので、ちょっとまとまっておりませんが、頭出しとして、江戸時代より前の時代も捉まえた中でいろいろな講師の方々、地域の方々の歴史に焦点を当てていくという、この活動も一つ提案をさせていただく可能性があるという頭出しをさせていただけたらと思いまして、発言をさせていただきました。

以上でございます。

○小枝委員長 はい。のざわ委員、分かりました。今のお話は、もし差し支えなければ、その持っている資料を委員に、何かこう、委員会のポストのほうに配付いただいて、それで少し、一定程度、皆さんが、ちょっとかなり大きい、それこそ縄文、弥生の、ね、英国大使館のところでそういうのが出てきましたけど、それは企画総務委員会のほうで取り扱っていただいているというエリアの設定、何ていうか、そういう領域の話もありますので、ちょっと、まず、今の、大変わくわくする面白い話なんですけど、その面白さをちょっとまずポスト対応で、資料がありましたら共有させていただくというようなことで、そこから始めさせていただく。もしかしたら、委員さんの中にも、今の話を共に聞いてご存じの方もいらっしゃるかもしれないし、それが、この当委員会として、みんなで何か課題共有ができるような内容であるのかどうかも含めて、恐らく一旦確認が必要になると思いま

すので、どうか、書類的なものを共有させていただければというふうに思います。

そんな取扱いで、皆さん、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 それでは、はい、それでは、本日はこの日程をもちまして——あ、その前に、委員の方から何かございますか。これはもう、いいですね。はい。

それでは、この日程をもちまして、閉会とさせて——ああ、はい、白川委員。

○白川委員 今後、これを総括することになると思うんですが、文化継承で一番大事なのは結局子どもたちがこの千代田区にどういう文化があり、それをどういうふうに継承していくかということを考えることだと思うんですね。せっかく総括するのであれば、我々がこういう文化を、知識を持ちましたとか、こういうことが大事だと思いましたがというところにとどまると、結局これ、断絶してしまうわけですね。本来、今の若い世代がつないでいかなきゃいけないのに、そこには受け継げないと。だとしたら、ある程度総括のときに小・中学校に対してこういう教育をしてもらえないかという提言ぐらいはできないかなと思います。というのが、古書店の話で高山さんなんか聞いたときに思いましたけれども、これ、結局、若い人が古書店になりたいと思わなければ、終わっちゃうわけですよ。で、何百人、何千人と子どもたちが古書店のことを知ったときに、一人ぐらいは、じゃあ古書店をやりたいということが出てくる可能性があって、そうしたら古書店はつなげるわけなので、子どもたちがまずたくさん、たくさん子どもたちがこういう文化があるということを知るとというのが大事なと思うんですね。

その古書店のお話のときも思いましたが、これ、2点ありまして、我々は古書店は古き良き文化として思っているわけですが、高山さんが当時始めたときって、かなり改革的という、革新的なことをやっていらっしゃるんですね。だから、当時の常識とは割と離れた新しいことをやっていらっしゃって、結局新しい文化をつくったのも古書店であるという知識も必要なので、この総括のときに、こんな革新的なことをやって今これがあるということも知らなければ、要するに古きよきものと言うんだけど、その古きよきものも当時は新しく革新的なものであると。だから、今、革新的なことをやって、100年後にそれが文化になるもんだよということを知るというのも大事だと思うんですね。だから、総括するときに、いかに古書店、あるいは、まあ、桜もそうですね。かなりラディカルな、今で言うところの再開発をやって、それがつながって、今の桜というのが、桜の地域というのができているわけなんで、その両方を知るというんですかね。今こういうすばらしいものがあるのは当時そんな革新的なことをやったからというのも、その総括のときに視点として大事なというふうに思います。

○小枝委員長 はい。ありがとうございます。そうですね、総括なり集約ということを行うに当たって、子どもたちにどのような、それを提言していけるのか、そして、文化継承と言うけれども、守り、引き継ぐものと、新しく100年後にも文化財として価値を持つようなものを創出していくことというふうな視点が大事じゃないかということだったと思います。その辺も、皆さん、委員さんの知恵も借りながら、まとめの作業を同時並行で少しずつ考えていきたいと思いますので、ぜひ並行して、お知恵を頂ければと思います。

それでは、あと、皆さん、よろしいでしょうか。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小枝委員長 はい。

それでは、本日はこの程度をもちまして閉会とさせていただきます。ありがとうございました。お疲れさまでした。

午前10時49分閉会